

秋の調べ

おはなし 関根 知孝

番組

令和三年

十一月三日(水・祝)

開場 正午 開演 午後一時

【仕舞】

清 經 由田 久子

葛 城 古橋 美香

地謡
関根 祥丸
藤波 重孝
知孝
木月 章行

【舞囃子】

紅葉狩 渡邊 洋子 大鼓 佃 良太郎 小鼓 飯富 孔明 笛 八反田 智子

【狂言】

千鳥 シテ(太郎冠者) 深田 博治 アド(主) 中村 修一 小アド(酒屋) 高野 和憲 後見 月崎 晴夫

【能】

休憩二十分

安達原 前シテ(里女) 岡庭 祥大 後シテ(鬼女) 大鼓 佃 良太郎 小鼓 飯富 孔明 太鼓 澤田 晃良 間(能力) 内藤 連 八反田 智子

後見 関根 知孝 地謡 依田 明子 古橋 美香 木月 宣行 藤波 重孝 関根 祥丸 野村 昌司 藤波 重彦 高梨 良一 藤波 重孝

(終了予定時間 午後三時五十分)

狂言「千鳥」

主人から、来客があるので酒を一樽買って来いと命じられた太郎冠者(シテ)。しかし長く支払いをしていないので、酒屋はしぶって売ってくれない。太郎冠者は、なんとか酒樽を出してもらおう。

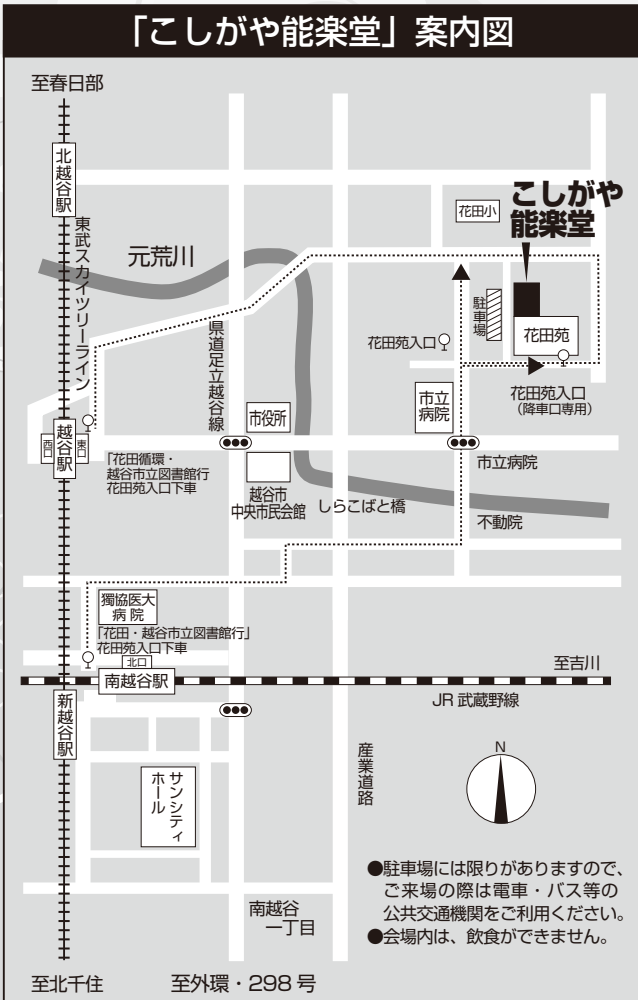
酒樽を持って帰ろうとする太郎冠者だが、酒屋がなかなか渡さない。酒屋が話好きなことを知っている太郎冠者は、尾張の津島祭の話をして、気を逸らそうとする。そこから、太郎冠者と酒屋の必死のかけひきが始まる。

能「安達原 黒頭」

諸国を巡る修行の旅をしていた山伏祐慶(ワキ)と、供の山伏(ワキツレ)、の力(山伏の従者)(アイ)の一行が人里離れた安達原で夕暮れを迎え、灯りの見える家に宿を借りることにする。家の中には女(前シテ)がおり、宿を乞われた女は、一度は断るも扉を開いて、祐慶たちを内へ招き入れる。夜も更け、女は夜寒をしのぐために薪を取りに行くと言いつつ、留守中に決して自分の寝室を覗かないようにと言いつつ出てゆく。

ところが、能力は女の言葉が気になり、女の寝室をこっそりのぞくと、中には死体の山女は、安達原の黒塚に住むと噂になっていた鬼だった。慌てて逃げ出す祐慶たちに、鬼女(後シテ)が追いかけて来て、襲いかかる。祐慶たちは力を振り絞って祈り伏せると、鬼女は夜の嵐の音に紛れて消え失せていった。

「こしがや能楽堂」案内図



●駐車場には限りがありますので、ご来場の際は電車・バス等の公共交通機関をご利用ください。
●会場内は、飲食ができません。